

出題分析			
試験時間	90 分	配点	75 点
		大問数	5 題
分量 (昨年比較) [減少	同程度	増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化
			同程度 難化]
【概評】			
<p>全体の問題構成は例年通りの読解問題 6 題、対話文空所補充問題 1 題、英文要約問題 1 題である。全体を通して全体的に素直な設問が多かったほか、題材となる文章にもよく知られている話題が見られたため、既に持っている知識を活用することで問題が解きやすかったと感じた受験生も多かったかもしれない。一方で、今年はⅢが例年に比べ難易度が高かった。全体的な難易度は昨年並みである。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	英文空所補充問題 A「先住民のオーストラリア地図」 B「数学への恐れと愛」	A・Bそれぞれ短めの文章中の空所 7 箇所に単語を補充する問題である。Aは一部の設問に難単語も含まれるなど難しかった一方、Bは比較的易しかった。	標準
II	長文読解問題 A「事故が示した脳における言語機能の位置」 B「デカルトへの反論」 C「江戸時代の大衆文化」	A・Bは短めの文章、Cはやや長めの文章を題材にした問題。設問文に続く一文を選ぶ問題と、設問文に対する答えとして最も適切なものを選ぶ問題がある。AやCは、例年と比べ読みやすい文章であり、また選択肢も全体的に素直であった。	標準
III	長文読解問題 「宗教政治の復活について」	長文中の空所 7 か所に英文を補充する問題で、選択肢は 8 つある。選択肢が 1 つ余るので紛らわしいが、前後の文を読むことで選択肢が 1 つに定まる空所から埋めることで取り組み易くなるだろう。一見すると埋めづらい選択肢もあるが、ディスコースマーカーをヒントにすることで解答できる。	やや難
IV	対話文空所補充問題 「運転免許更新手続きの会話」	対話文中の空所 7 か所に適切な語を補充する問題で、選択肢は 13 個ある。対話の状況設定はわかりやすいが、難易度の高いイディオムも見られた。32 や 36 のような大学入試頻出のイディオムでしっかりと得点しておきたい。	標準

設問別講評			
V	英文要約 「スマートフォンによる世界の変化」	250 語程度の英文を要約する問題である。例年同様、解答欄に書き出しが与えられ、それに 4 語～10 語を加えて文を完成させる形式であった。題材となる文章は比較的身近な内容であった。書き出しの英語をヒントにすれば解答の内容を定めやすくなるだろう。	標準

合格のための学習法
読解する文章はテーマが多岐に渡っているが、それぞれの語数は多くないので慌てずに通読し、内容を理解することに努めてほしい。空所補充問題でも、空所の前後だけでなく全文を通読することが、問題を解くにはむしろ近道になり得る。普段から長文を自力で読解する訓練を積み、馴染みのない概念や抽象的な内容を扱った文章にも落ち着いて取り組めるようになろう。総じて語彙レベルが高いため、単語学習は特に力を入れて取り組みたい。